

I 自己評価結果と学校関係者評価の状況

学校教育目標	
人間尊重の精神に根差し、主体的に考え、共に実行する共生社会を目指し、心豊かでたくましい人間を育成する。 【 ◎学び合い（重点） ○心豊かに ○たくましく 】	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
目指す子供像	目指す教師像
・目標をもち、仲間と共に考え、未来に希望をもってがんばる子 ・合言葉「ゴール（Goal）」「フレンド（Friend）」「トライ（Try）」	・子供たちの人権や感性を尊重し、共に成長を喜び合う 同僚性の高い教師集団

(1) 確かな学力の育成

重点目標	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けて、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。			
評価項目 (目標とする 成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
自分でめあてを立て、課題解決に向けて学びを深め、広げる児童が70%以上。	3	児童 81%ができたと回答。児童が主体的に学習に取り組めるよう、導入を工夫し、発達段階に応じた学習方法を児童に提示したことが効果的だった。	A	・目標に向かって自ら学ぶ、自分に合った学び方を知ることを継続してほしい。 ・子供たちが自ら課題を立て、そこに取り組むプロセスを大切に取り組まれたことが分かる。 ・子供たちは自分の考えを積極的に他の人に伝えている。 ・学びの姿勢をしっかり身に付けるための工夫がされている。
タブレットや学習シート、話し合い活動を通して、考えの交流や自己の振り返りに生かした児童が85%以上。	3	児童 82%ができたと回答。研究の柱である「表現力を伸ばすための工夫」を行ったことで、話し合いの機会が増え、共有が活発に行われるようになった結果である。	A	・地域を知るために調べ学習をしたり、やさしい街づくりを考えたりする学習に今後も期待している。 ・できないと回答した子供の分析をし、改善に努めてほしい。
地域を知り、地域の一員として課題解決に向けて主体的に考え、実践する児童が85%以上。 (ESD の視点)	3	児童の 77%ができたと回答。各学年で児童が町の現状を知り、よりよくするための課題を設定し、課題解決に向けて取り組んだことが効果的だった。	B	・朝の生活習慣は学校での指導のみでは難しいので、より家庭との連携を深めてほしい。 ・外遊びをしようとする仕掛けが必要である。 ・避難訓練・安全指導は地域と連携して素晴らしい都組みを行っている。 ・避難訓練・安全指導実施後の安全対策を児童と話し合ってほしい。
評価のまとめ	子供たちが主体的に学習に向かうために、校内研究を通して学校全体で取り組んできたことが成果として表れている。次年度はより教師がファシリテーターとなれるように研修を積み重ねていく。地域を知り、自分ができることの実践は継続していく。			

【評語について】

自己評価		学校関係者評価		
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上~100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上~90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上~70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	自他を大切にし、安心できる居場所づくりをし、自立と共生を目指す。			
評価項目 (目標とする 成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
いじめ認知への感度アップと、早期&適切な対応で「重大事案ゼロ」を目指す。「居場所のない児童ゼロ」を目指す。	3	児童への意識調査だけでなく、日々の丁寧な見取りを大切にし、引き続き、児童が安心して周囲に相談できる学校づくりをすすめていく。	A	・安心できる居場所作りのさらなる充実を図ってほしい。 ・「ふわほかおうえんルーム」が居場所として活用できている。 ・ユニバーサルデザインを自然に意識できる大人に育つてほしい。 ・行事や委員会などにやりがいがあるということは、児童の気持ちや声が反映されているからだと分かった。
学級での合理的配慮やユニバーサルデザイン化を進め、居心地が良いと感じる児童が85%以上。	3	居心地の良さは 83.4%であった。概ね達成はできているがそうではない 16.6%の存在に着目し、何に対しての居心地の悪さであるかの原因を把握する必要がある。	A	・地域の大人もっと話し合える機会や触れ合う場を多くしててもよいのではと思った。
運動会や文化行事、委員会・クラブ活動などで、「自分の力でできた。やりがいを感じられた。」と感じる児童が80%以上	3	児童へのアンケートの結果、行事や特別活動を通して、「自分の力でできた」、「やりがいを感じている児童は 88.9%であった。 児童が主体的に関わる部分を精査し、分かりやすくすることで充実感を感じることができたと考える。	A	・地域の大人もっと話し合える機会や触れ合う場を多くしててもよいのではと思った。
評価のまとめ	生活指導夕会や特別支援校内委員会、登校情報を毎週全教員で共有し、個々の児童に沿った支援を組織的に行っている。別室登校支援室「ふわほかおうえんルーム」ができたことで児童の安心できる居場所として活用できている。 児童主体となる行事運営の一層の推進を図る。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	健康な生活習慣の確立と体力向上を目指し、自分の命を自ら守ろうとする力を育てる。			
評価項目 (目標とする 成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
「早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレ」などの基本的な生活習慣が身に付いている児童85%以上。	3	児童の自己評価では、77%が基本的な生活習慣が身に付いていると実感している。今後、ご家庭とも連携してすすめていく。	B	・朝の生活習慣は学校での指導のみでは難しいので、より家庭との連携を深めてほしい。
晴天時、休み時間に外遊びをする児童が85%以上	3	児童の自己評価では、74%が外遊びをしたと回答している。今後、遊びの例示をするなど、児童が外遊びをしたくなる工夫を行っていく。	B	・外遊びをしようとする仕掛けが必要である。 ・避難訓練・安全指導は地域と連携して素晴らしい都組みを行っている。
避難訓練、安全指導の徹底（教員）、目標に対しての評価が「できた」という児童が85%以上。 (生活指導)	3	児童の自己評価では、97%の児童が肯定的な評価をしていた。今後も一つ一つの訓練や指導を真剣に行っていく。	A	・避難訓練・安全指導実施後の安全対策を児童と話し合ってほしい。
評価のまとめ	朝の生活習慣は、保護者会やおたよりで家庭に呼び掛けているが、改善が難しい。外遊びの励行と共に児童自身が自分で自分の生活を改善できるような指導が必要である。地域と連携した防災訓練は今後も継続していく。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	主体的に学校をよくするためにどうすればよいのかを考え、地域を知り、地域の方々に感謝し、地域の一員として、できることを考える力を育成する。			
評価項目 (目標とする 成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
総合的な学習の時間や生活科の時間を柱として「地域貢献」をキーワードに授業を展開したか。70%	3	教員の自己評価では、71%が「地域貢献」をキーワードに授業を行っていた。今後は、これまでの授業実践を基に、「地域貢献」の意識を高めていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を知り、地域のために行動する児童がいることが有難い。 ・地域とのつながりを意識し、実行力や実践力に注目し、気持ちや意識を具現化できる力が貴重である。
考える力を育成するだけでなく社会参画力や実行力・実践力については育めたか。60%	2	総合的な学習の時間を通して、地域の人や自然のために、自分でできることを考えたり実行したりした学年があった。(例:地域のごみ拾い、祭りや商店街、児童館や青少年協の催しに参加等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学運協で改善や追加項目があつたとき、具体的な進め方を話し合ってほしい。 ・会議の中で先生方より具体的な指導内容を聞かせていただき、貴重な機会になった。 ・教員の方々から日々の工夫や悩みを聞いて、その責任感にいつも感謝している。
年間4回の学校運営協議会への若手教員の参加を促し、地域運営学校としての意識を高める。70%	3	教員の自己評価では、70%が地域運営学校としての意識を高めていると回答していた。学校運営協議会の会議記録を回覧したり配布したりして、さらに意識を高めていく。	A	
評価のまとめ	総合的な学習の時間や生活科において、「永山」の地域や SDGs への学習活動に取り組んだり、地域行事に児童が積極的に参加したりすることで、地域と温かなつながりができる。地域協働本部とも連携を継続し、今後も「永山」を愛する児童を育てていきたい。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

【方向性】

●主体的な学びを推進するために

①教職員個々の課題に即した校内研究のスタイルを継続(少人数グループを中心とした校内研究)

②道徳授業の充実

③教師のファシリテーションを意識した授業づくりと研修

④児童が創る学校行事の継続

●居場所のある学校へ

①不登校児童や特別支援を必要とする児童への個別支援や組織的な支援の一層の充実

②地域協働本部との連携した活動の継続

【課題】

①令和8年度からの別室登校支援室運営について

②通常学級における合理的配慮

③健やかな心身の育成のための家庭との連携

④PTA の在り方について

以上のとおり報告いたします。

令和7年3月21日

多摩市立永山小学校 校長 向井 美紀

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立永山小学校